# 響け 今こそ平和の願い

スカイツリーを臨む天空劇場に平和への願いを込めたゴスペルが響き渡った。

昨年9月16日、4年ぶりのホール開催による第19回東都生協平和のつどいに212人が参加。

次世代に歴史の事実と平和の大切さを伝えていくための平和のつどいを中心に、この1年の平和活動を紹介します。

オープニングはPraise ye the Lord(プレイズ・イ・ザ・ロード)平和への祈りと救いを全身全霊で歌い上げる西村あきこ&Ako's Family 27人の迫力あるアカペラ。

日本語訳の Amazing Grace(アメイジング・グレイス)など、アンコールを含む7曲を熱唱。西村さん作詞によるDreams Will Come True(ドリームズ・ウィル・カム・トゥルー)には「平和を諦めずに望めば必ずかなう」と願いを込めて選曲。

♪夢追い続けて空に描こう〜♪の1フレーズを観客とコール&レスポンス。東友会の皆さんも前列来賓席から手拍子で盛り上げてくださいました。

ゴスペルシンガー♪
**西村あきこ**さん

3年ぶりにニューヨークから帰国したゴスペルシンガー西村あきこさんと Ako's Family ゴスペルクワイヤのメンバーが観客の前で歌うのは実に4年ぶり。コロナ禍のためリモートでのレッスンなどを積み重ね、この日を迎えることができ感慨もひとしお。

被爆証言を聞いたことで、メンバーの男性から「実は私も被爆2世です。元気に歌っています」といった告白もあり、さらにメンバー間の絆が深まったそうです。

ゴスペルは、一人ひとりが思い思いに自由に歌いながらも調和していることが魅力。多様な人々が憎しみ合うことを捨て心の平穏を願い、音楽を通じて平和への祈りを捧げるゴスペルコンサートでした。

♪「いつも参加していますよ。地元開催でうれしいです」
♪「ゴスペルは、全身から湧き出る声の力に心を動かされ、元気をもらいました」
♪「平和を守り続けた先人に感謝し、若い人に伝えることの大切さを感じました」

左から 髙梨さん、大畑さん、石川さん

## ロビー展示コーナー

### 戦争ほうき!?

「戦争反対」の意思表示として服の胸やかばんに付ける小さな「戦争ほうき」を作りながら平和について語り合います。

1991年、東都生協組合員の 入江篤子さんが考案し、今では全国に広がっています。

戦争ほうきの作り方は右の二次元コードから動画を見ることができます!

### 平和の願いの樹

カードにメッセージを記入し、平和の願いの樹に貼付

「お兄ちゃんが原爆ドームを見たいというので、広島に行ってきたばかり。家ではなかなか伝えられないことを、実際に聞くことができて、平和について考え、話し合うこともできました。弟には、原爆と人間のパネルがまだ怖かったみたいです」

平和のつどい初参加の安保(やすほ)さん親子

### ORIGAMIコーナー

みんなで千羽鶴を折りました。

### クイズとミニ学習コーナー

東京大空襲は
何月何日?
問題カードをめくると➡正解は3月10日

### ピースニット

10cm×10cmのモチーフ70〜80枚をつなげ、温かい膝掛けにして東京に住む被爆者の方たち(東友会)に毎年贈っています。

第6地域委員会主催サロンでつなぎ合わせて作成した膝掛け

活動団体「ピースニットカフェ」作成の膝掛け

### 文集&感想文

**戦争体験文集&
平和募金企画参加者感想文**

組合員から募集した戦争体験者の証言と平和へのメッセージなどを紹介する文集を毎年発行しています。

### パネル展示

「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間パネル展示」を熱心に見る来場者

## 東友会との交流

一般社団法人東友会※1
代表理事
**家島昌志**さん

東友会※1との交流は1988年に始まり、平和のつどいや地域で行う学習会などで、被爆者証言をお聞きしたりしています。ピースニット(膝掛け)の贈呈と平和募金を活用して東友会の活動支援と交流を行っています。

## ピースアクション参加者報告

日本生協連では「平和とよりよい生活のために※2」という理念のもと、戦争・被爆体験の継承や、世界のさまざまな戦争や紛争、基地問題、憲法など多角的なテーマで平和を考えるピースアクションを開催。全国の生協が参加しています。東都生協は2023年3月の沖縄と8月の広島へ代表者を派遣しました。

**和賀一美(わがかずみ)**さん

生まれて初めて訪れた那覇の町を歩き、会話もできないくらいの米軍の戦闘機の轟音にびっくりしました。対馬丸事件※3生存者の平良啓子さん(2023年7月に死去)のお話を聞くことができたのは貴重な経験。

**永谷聖子(ながたにしょうこ)**さん

ひたむきに平和を願い、自然体で活動をする広島の人々の姿を目の当たりにしました。地域コーディネーターとして企画の参加人数にとらわれるのではなく、一人の人間として平和を願い、地域の人々に寄り添いながら、自分自身の学びを積み重ねてコツコツと発信し続けていきたい。

※1 一般社団法人 東友会(東京都原爆被害者協議会)は、東京在住の広島・長崎原爆被爆者の方が1958年(昭和33年)11月16日に結成しました。60年以上、励まし合いながら、被爆者と家族のための運動や事業を続けている、東京レベルで唯一の団体です。
※2 1951年3月の日本生協連「創立宣言」より
※3 1944年沖縄から疎開する民間船対馬丸が、アメリカ軍に撃沈され、800人近い子どもが犠牲になった事件。

# 響け 今こそ平和の願い

## 「原爆に母を奪われて」

東京被爆二世の会（おりづるの子）
会員 澤原義明さん

プロフィール　1948年広島生れ
母親の澤原登志子さんは、23歳で広島市内の自宅で被爆。7年後、骨髄性白血病と診断され、4年半にわたる闘病生活を余儀なくされ、36歳で亡くなりました。義明さんが9歳の時のことです。

### 家族との生活を奪われた母の思いを継いで

2月の寒い日でした。深夜に駆け付けた原爆病院で、よく叱られ近寄り難かった父が、僕の手とお母さんの手を痛くなるほど強く握らせて「お母さんと言え、お母さんと呼べ」と繰り返し叫び、部屋中に響くような大声で辺り構わず泣いていたことを覚えています。

母の手記の存在は、ドイツに住んでいた娘から知らされました。「健康になりたい。普通の生活がしたい」その必死の思いが繰り返しつづられていました。娘と広島の平和記念公園を歩きながら聞かれたことがあります。

「パパはアメリカが憎くはないの。リベンジしたいとは思わないの？」

母は健康を破壊することは二度としないでほしいと手記に切望していました。僕は自分自身を諭すために「憎んではいないよ。リベンジをしてはならない。憎しみからは何も生まれないよ。話し合うしかない」と答えました。

1953年6月
原爆病院中庭にて

### 同じ過ちを繰り返さないために

核兵器禁止は理想だとか実現不可能だとか言わないでください。平和であることがいかに壊れやすいことか、このことを絶対に忘れないでください。被爆者の思いと全ての戦争の被害者の思いに寄り添って平和を願う国民運動として連帯していく必要があると思います。

戦争を繰り返してきた過去の歴史に学び、諦めることなく、共感と安心、共通認識が醸成されるまで、対話を続けることを諦めないでください。そしてここにいる皆さんがお子さんやお孫さんのために、二度と戦争を起こさないという思いを培っていただきたいと思います。

※主な資料　2008年8月　NHK広島放送局「ヒバクシャからの手紙」
1953年8月　岩波書店「世界」ある白血病患者の手記

## 地域の平和活動

2023年度に実施した地域での平和活動の一部を紹介します。

### 戦跡、資料館などを戦争と平和に関する歴史を学ぶ訪問企画

**7/23　過去の戦争について学べる平和祈念展示資料館（新宿区）を訪問！**
（第2地域委員会 主催）

兵士、強制抑留者、引き揚げ者の苦労を物語る当時の映像、実物資料の常設展示を1時間程度学芸員から解説していただきました。子どもが関心を持つようなジオラマ展示や、特別展示があり、定期的に足を運び戦争の歴史を学べる資料館でした。

**11/26　平和を考える浅川地下壕（八王子市）の見学会**
（第6地域委員会 主催）

第2次世界大戦末期に作られた「浅川地下壕」は東洋一といわれた軍用飛行機メーカーの秘密地下工場として使われた全長10㎞にも及ぶ東京の戦跡。参加者のライトの明かりだけを頼りに、講師の説明を聞きました。戦時中にタイムスリップした感覚で平和の大切さについて感じることができ、親子参加も多い見学会でした。

### 戦争体験のお話会など

**自分事として考える戦争・平和 ～被爆体験談とプレゼンテーション　8/20**
（第9地域委員会 主催）

東友会の石飛公也さんの被爆体験を伺いました。「4歳で原爆投下直後の広島駅から見た一面の焼け野原は、がれきや遺体の燃えた臭いとともに78年経っても忘れられない」と語りました。その後、参加者がグループに分かれ、戦争にまつわる本・映画などの作品を紹介しました。

**沖縄戦の記憶をたどる ～対馬丸事件を中心に～　8/22**
（第3地域委員会 主催）

「ピースアクションin 沖縄」に参加した職員の報告会。参加者からは「沖縄の歴史を知り、悲しみを知り、今の基地問題が解決しない限り私は観光気分で沖縄にはいけない」との声もあり、今もなお戦争の犠牲を強いられている沖縄に思いを寄せました。

ピースアクションinナガサキの子ども平和会議のアピール文※では「自らが被爆の実相に触れるだけでなく、さまざまなコミュニティやツールを用いて、人から人へ、記憶と記録を伝えていきます」と自分たちのやり方で伝えていくことを宣言しています。

今を「新しい戦前」にしないために。本特集があなたにとってピースアクションの一歩となることを願っています。

※2023ピースアクションinナガサキ子ども平和会議　日本生活協同組合連合会ホームページ　https://jccu.coop/

# 未来につなぐ募金

東都生協では、誰もが健康で安心して暮らし続けることのできる地域社会の実現を目指す活動（団体）を応援、助成を行っています。組合員一人ひとりの思いを寄せ合い集めた募金を、東都生協の商品に換えて応援する仕組みです。毎号、助成団体を紹介していきます。

**1口200円から支援できます**

募金方法は、注文書の**特別企画注文欄「商品（申込）番号」に【365920】の6桁番号を記入**し、**「数量」欄に募金する口数を記入**してください。1口200円です。
※インターネット注文「とうとねっと」、電話注文でも募金ができます。

配付会場でスタッフと手作りおもちゃで遊ぶ親子

助成団体紹介 Vol.06

**団体名　すずめ食堂の会**

設　　立　2016年12月　　ボランティアの受け入れ　あり
代 表 者　佐藤 くみ子さん　　広報ツール　チラシ、ホームページ
活動拠点　目黒区
活動内容　子ども食堂、パントリー、学習支援、遊び場
メンバー　すずめ食堂の会有志

元教師の佐藤さん作の会ロゴ

### 会場には「パックご飯は東都生協の提供です」の案内が！

目黒区の「すずめ食堂の会」が開催する0円マーケット会場に入ると、大きく書かれたお知らせが目に入りました。「東都生協の商品が提供されていることを知ってほしいし、私たちも感謝していますから当然です」と代表で組合員の佐藤さん。募金が役立っていることを実感しました。取材は寒さを感じ始めた11月16日夕方。この日は手作りお弁当82食22家族分が用意され、自転車に乗って何組もの親子が訪れました。

コロナ禍で食堂が開けなくなった代わりに始めたお弁当配りに、「誰かと話すきっかけが欲しい」「子育てや家事を少しだけお休みしたい」というつながりや心の解放を求めてやってくる人が増えたそうです。訪れた親子は、メンバー手作りの紙おもちゃで一緒に遊んだり、近況報告や世間話をしたり。和らいだ表情になって帰っていく姿がたくさんありました。

近所での新生児の悲しい事件がきっかけで、子どもや子育てをする人の役に立ちたいという思いで会は設立され、組合員の坂本とも子さんの情報提供で助成申請。地域の人たちがホッとできる居場所でありたい、特に子どもが自由にできる場所を作りたい。その想いで無料学習会や外遊びの会も開催しています。この日の学習会では、おしゃべりが苦手という中学生と「しりとり」が始まり、おとなも子どもも素早いテンポで途切れることなく、予想以上の盛り上がりでした。

学習会参加の元気な中学生
生協提供のお茶でピース！

子どもたちも一緒に昼食作り

助成団体紹介 Vol.07

**団体名　NPO法人 子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ**

設　　立　2008年5月　　広報ツール　ホームページ、フェイスブック、チラシ、広報紙（たんぽぽつうしん・年3回）
代 表 者　青島 美千代さん
活動拠点　横浜市
活動内容　フリースペース（不登校の子どもたちなどの居場所）の運営、親や子どもたちの相談事業、学習支援、交流および情報提供・発信事業
メンバー　元教員・元学童指導員、学生、他　会員数103人　　ボランティアの受け入れ　状況に応じて

### 「生き方はいろいろあるよ」が体感できるみんなの居場所

不登校のお子さんや、その保護者に寄り添って15年以上。ここを居場所として人に出会い、好きなことを見つけたことで羽ばたいていった子どもたちは、漫画家、夢を見つけて大学に進学、作曲からアルバムデザインまでこなすピアニスト…とさまざま。巣立ってからも、ボランティアとして関わってくれています。

学校に行かない子どもを持つ親の交流から始まり、子どもが安心して過ごせる場を作ろうとスタート。現在、登録して利用しているお子さんは電車で通って来る子が大半で、いかに貴重な存在であるかが分かります。

開所は週4回で、昼食をみんなで一緒に取るのは週3回。訪問した時は、昼食作りの真っ最中でした。スタッフと一緒にポテトサラダを作る子、ゲームをしている子、大学生のボランティアと話している子など、おのおのが自然体で過ごす姿とリラックスした表情が印象に残りました。

ご飯・おやつ作り、工作教室、地元町内会と連携した落語寄席の開催などの室内の活動に加えて、スポーツセンターや公園へスポーツをしに行ったり、工場・美術館の見学や観劇に出かけたりもするそうです。登校していないことで得られなかった体験を、ここの仲間と共有できるように配慮されていました。

小学生を中心に相談が増えている現状に対応するため、子どもたちが楽しく安心できる場所、親も相談できる、親同士がつながれる場所として、ますます重要性が増すように思われました。

好きなことを好きな場所で